

## 豫科練記念館を研修して

倉永 えりか

六月二十八日に豫科練記念館研修にさせていただきました。

最初に行った雄翔館には、豫科練出身者の遺影や遺書が展示されていました。出撃命令直後に家族に宛てた数々の遺書に心を打たれました。どの遺書にも戦地に飛び立つ前向きな意思が綴られていて、最後は必ず、家族の無事や健康を気遣う言葉でした。遺書に綴られた言葉は、私には計り知れない思いがたくさんあったんだろうなと感じさせられるものばかりでした。

記念館では、豫科練生の生活が分かる時間割や、訓練を受けている実際の映像などを見ることが出来ました。映像にはとても高い位置から手を広げて飛ぶようにプールに飛び込む姿や、バク転をしている姿が映されており、今の私たちよりもはるかに運動能力が高いことが伺えました。

また、ほとんどの豫科練生の夢が「大空に飛ばたく航空機にのること」だったと知りました。航空機に関する授業を受けている姿は真剣そのものでした。

なかでも印象的だったのは、部屋で友達と輪になってとても楽しそうに談笑する姿でした。訓練中の様子とは違う無邪気な笑顔は、とても身近に感

じられたと同時に胸が締め付けられました。

豫科練卒業後、それぞれの過程を経て戦地へ向かい命を懸けた方たち、戦況が悪化し航空機の操縦を覚えただけで戦地に送られた方たち。自分自身が爆弾となって死を前提に敵の船に突撃した方たち、たくさんの命が犠牲になりました。

私は、記念館を訪れて、改めて戦争の悲惨さ、戦争をする意義、他に解決策はなかったのかと、考えさせられました。

私は戦争を経験していませんが、二度と戦争を起こしてはならないという強い気持ちと、平和に生かされている命への感謝の心を持つこと、この平和を守り続けていくことが今の私たちに大切なことだと強く感じました。